



大分県内ニュース

地域密着！郷土のニュースとスポーツ

> 大分県内 TOP

防災訓練終了、避難計画疑問の声 伊方原発

おすすめ0

ツイート

四国電力伊方原発(愛媛県伊方町)の重大事故を想定した国の原子力総合防災訓練は9日、民間のフェリーなどで豊後水道を渡って大分市に避難した伊方町民69人を受け入れる初の訓練があり、2日間の日程を終えた。訓練は政府が10月に了承した避難計画の検証が狙いだったが、参加した町民からは「地震や津波の複合災害で陸路も海路も使えずに孤立するのは」「大分が被災していた場合は受け入れてくれるのか」と計画の実効性を疑問視する声が相次いだ。



フェリーで佐賀関に到着した伊方町の住民=9日午前、大分市

訓練には「日本一細長い」といわれる佐田岬半島の先端部分に当たる伊方町三崎地区の住民や町職員らが参加。同日午前、町内の三崎港から海上自衛隊の艦船や国道九四フェリーで出発した。

「机上では大丈夫かもしれないが、港に被害が出ると、船は接岸さえ難しいかもしれない。陸路も海路もだめならば自宅にいるしかない」。農業小田鉄夫さん(62)は不安を口にした。

海自艦は大在公共埠頭(ふとう)、フェリーは佐賀関港に到着。バス計3台に分乗し1次避難先の大分市のホルトホール大分を訪れた。

到着した住民の多くが「本番の避難ならこんなにスムーズにいくわけがない」と感想。主婦木下節子さん(63)は「三崎は前が海で、背後は山。道路は細く曲がりくねっている。移動ルートが無傷とは考えにくい上、地区の半分近くは1人暮らしの高齢者で移動も大変。訓練はかなり恵まれた条件を想定しており、今回をもって『合格』とするのはいかがなものか」。

無職桜井正司さん(68)は「大分も被害を受けていたら、私たちを受け入れてくれるのか」と案じた。

ホルトホール大分では大分県と大分市の保健師計4人が体調に問題がないか問診し、血圧を測定。その後、住民は昼食を食べ、再び伊方町へ戻った。

避難住民の体調を確認した県の保健師は「被災者の心に寄り添うことが重要と感じた。本番であれば被災者の表情はもっと切実だったと思う。人数も多くなると思われ、一人一人に気遣いながら対応できるか」と課題を挙げた。

中村時広愛媛県知事は海自艦で住民に同行し、避難手順を確認。報道陣から避難計画の実効性について問われ、「課題はこれから一つ一つを検証していく。第三者にも検証してもらい、参加者や公共機関のアンケート、意見も頂く。そこまで待って見ないと判断はできない」と述べた。

大分県は最大5千人の伊方町民を受け入れる想定。広瀬勝貞知事は「態勢に万全を期するのが大事。(港からの)バス輸送などもよく検証したい」と語った。訓練初日の8日には、放射性物質を含む雲状のブルームの飛来に備え、大分市佐賀関の大黒、小黒地区で、住民が自宅など建物内にとどまる「屋内退避」の訓練を初めて実施した。大分県は今後、一連の訓練を検証して対策に生かす考え。

※この記事は、11月10日大分合同新聞朝刊1ページに掲載されています。



株式会社村上開明堂コンフォーム
軽い、割れない 落ちにくい
防煙垂壁 LSウォール
当社からの新提案 詳しくはこちら

速報ニュース

大分県内 国内海外 スポーツ

ニュースアクセスランキング 11時41分集計

大分県内 国内海外 スポーツ エンタメ

- 1 学びと社会つなぐNIE全国大会大... 8月5日 3時1分
2 空手・形日本代表大野「努力を続け... 8月5日 3時1分
3 違法性指摘相次ぐ別府署隠しカメラ 8月4日 3時1分
4 別府署隠しカメラ、選挙違反の捜査... 8月4日 15時31分
5 チェーン越え侵入複数回カード交換 8月5日 3時1分

ランキナー一覧を見

大分合同新聞ニュース絞り込み検索
記事の絞り込み検索が可能になりました!

期間選択 2016/08/05 ~ 2016/08/05
ジャンル選択 ジャンル(すべて)
記事種別選択 記事(すべて)